

第4回紀の川市長期総合計画審議会 議事録

日時/会場		令和8年2月20日（金） 13:30-14:50 / 本庁舎3階 庁議室
出席者	紀の川市	出席者名簿のとおり（欠席：加藤委員、庄司委員、青木委員）
	事務局	企画経営課：栗本、東、増田、西端、辻、森本、甲佐 受託業者：現地/石堂、眞鍋 オンライン/井上、坂井
議題		1. 開会 2. 議事 3. 閉会
資料		<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回審議会次第 ・ 【資料①】 第3回審議会議事録 ・ 【資料①補足資料】 第3回審議会意見一覧 ・ 【資料②】 基礎調査報告書（修正・追記箇所抜粋） ・ 【資料③】 第3次紀の川市長期総合計画基本構想（素案） ・ 【資料③補足資料1】 NEXT紀の川ミーティング報告書 ・ 【資料③補足資料2】 人口推移および今後の見通し ・ 【資料③補足資料3】 第3次紀の川市長期総合計画基本構想（案）について ・ 【資料③補足資料4】 第3次紀の川市長期総合計画に関する意見募集（パブリックコメント）概要 ・ 【資料④】 令和8年度の審議会スケジュール

■ 議事内容

1. 開会

※事務局より欠席者、配布資料等について説明した。

【会長】

お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。前回までの審議会では、基礎調査報告書をもとに本市の強みや課題を整理し、基本構想骨子案と将来像について貴重なご意見をいただいた。本日の審議会では、こども未来会議、未来共創ワークショップなどでの市民意見をもとに、庁内の若手有志職員ワーキンググループで議論を深めた基本構想素案に関する審議を進める。また、3月に実施予定であるパブリックコメントで提示する案として忌憚ないご意見をお願いしたい。

なお、本日の議論は基本構想に関する内容であり、基本構想を実現するための具体的な内容を示す基本計画は、今後の審議会でも議論する予定である。

(1) 前回議事録の確認

※事務局より議事録の修正箇所を説明し、委員の皆様から議事録の内容確定に了承いただいた。

2. 議事

(1) 基礎調査結果報告書の追記について

※事務局より議事（1）「基礎調査結果報告書の追記」について説明した。

(2) 基本構想（素案）について

※事務局より議事（2）「基本構想（素案）」について説明した。

【委員】

将来像に込めた想いの4本柱「みんなでつなげる」「わくわくの未来」「実りあふれる」「住みたいまち」と、まちづくりの目標の5本柱「ひとづくりと地域づくり」「しごととにぎわい」「くらしと環境」「つながり」「しくみと共創」は、対応しているか確認したい。

【事務局】

直接的に対応はしていない。市の将来像を実現するための政策目標として5つの分野の切り口で掲げている。

【委員】

「みんなでつなげる」というフレーズを先頭に記載していることを評価したい。「人を大切にすること」という視点を大事にしているのが伝わってくるためよいと考えている。文脈的に未来が大事であると解釈できるが、「今も未来もみんながつながっている」ことが重要であると思う。

また、一般的には「わくわくの」という表現は使用しないため、「みんながつながる ときめく未来」などの表現がよいと思う。「実りあふれる」という表現は現代的でよいと思う。「住みたいまち」では、市外の人からの視点であるため、市内に居住している人からの視点で「生きがいのまち」などの表現がよい。言葉の心地よさの観点から1フレーズ7文字で統一し、「みんなつながる ときめく未来 実りあふれる 生きがいのまち」などの表現がよいと考える。

【事務局】

庁内の会議でも「わくわくの未来」や発音する際のリズムについての意見があった。再検討する。

【会長】

基本構想素案には、将来像のフレーズに込めた想いの説明文も記載されているという認識に相違ないか確認したい。

【事務局】

認識のとおり、将来像の各フレーズに込めた想いも基本構想に含んでいるが、「住みたいまち」は市外からの視点となっているという指摘に対して修正の余地があると考えている。

【委員】

「みんなでつなげる」には、人とのつながりが難しい時代の中でつなげていくという意識、「わくわくの未来」には厳しい時勢でも未来に向かう姿勢、「住みたいまち」には進学等で市外に出た若者が紀の川市のよさを感じて住みたいと思えるまちを選び取ってほしいという意味、これらが将来像には含まれていると感じられる。

人口推移を踏まえると、一度、紀の川市から出て戻ってくる人が多いと理解した。その意思の表れとして「住みたいまち」と表現してもよいと考える。

【事務局】

すべてのワークショップで「つながり」というキーワードが出ていた。地域でのつながりや過去と未来のつながりを表現したいという想いが込められている。また、「実り」や「自然」というキーワードも多くあった。市の農産物や自然、先人たちの歴史など、すべてが実りであると整理いただいている。市民の想いも尊重し、言い回しやリズムなども考慮して再検討する。

【委員】

まちづくりの目標3 暮らしと環境に記載の「街灯や下水道」という表現は「街灯や上下水道」としていない理由を確認したい。

また、生産年齢人口を老年人口が上回ることから、基本構想の全体的に危機感が足りないのではないかと感じる。将来的に紀の川市が陥る可能性がある未来を受け、よりよい未来とするために様々な取組が必要であるという危機感を持った視点がないように感じるため、戦略の視点も盛り込んでほしい。

【事務局】

「街灯や上下水道」という表現にするかは今後検討する。

将来像の検討過程で、厳しい現実が待ち受けていることは意識した。現状のまま対策をしなければ危機的な状況であることを踏まえての市民参画による基本構想の作成となっている。事務局としては、市民と行政が同じ方向を向き、未来志向型の考えのもとに、基本構想は希望に満ちた内容で構成したいと考えており、紀の川市の危機的状況は別の序論等で記載する予定である。

【会長】

将来像に込めた想いの1文目に、現状の認識や危機感を抱くような説明文にしてもよいと考える。基本構想はバックキャストの考え方で作成し、基本計画ではフォアキャストの考え方で厳しい現実を語るという構成でも対応できると考える。

【委員】

将来像に込めた想いが悪いというわけではないが、事務局の説明にあった序論等の流れから、現状を受けて新しい計画を作成するという流れにした方がよいと思う。

【委員】

まちづくりの目標5 仕組みと共創では、DX推進による効率化や人材育成について、県や近隣市町村との連携で対応すると言及しているが、DX人材は県や近隣市町村にも多くはない。行政の人材だけでは解決できないことも多く、民間の専門人材との共創に関する内容を追加したほうがよい。

【事務局】

限られた財源と人材の中で、新たなデジタル技術を活用しながら、可能な限り最大の効果を生む行政運営に努めていきたい。紀の川市だけでは解決できない問題も多くあり、広域連携を促進するとともに、市民の知恵も借りながら推進する必要があると考えている。また、民間事業者との共創は、基本構想に文字として記載はできていないが、基本構想を検討する過程で同様の意見をいただいているため、基本計画の策定の際に重視して取り入れていきたい。

【委員】

県の長期総合計画でも民間との連携を記載しているため、「紀の川市だけでは解決できない課題に対して、民間との共創で対応する」という旨を追記してよいと考える。

【会長】

第2期総合計画までは、市民の参加という記載であったが、第3期総合計画では、市民との対話・連携・共創を打ち出していて、非常によいと考えている。

【委員】

市民一人ひとりの尊厳や価値を重視しており、市民と一緒に生きがいのあるまちにしていくという流れがよいと考えている。人の大事さ・大切さを重視していることに触れ、込めた想いの冒頭に記載してほしい。

「選択と集中」という表現ではなく、「適正化」という表現が適切だと考える。小学校の統廃合なども、小学校を「集中」するのではなく「適正化」と理解している。適正化と一人ひとりを大事にすることはつながっているため、込めた想いに基本認識として記載してほしい。

【会長】

「市民一人ひとりが主役」という言葉に、そのような想いも込めて表現を調整してほしい。

【委員】

まちづくりの目標2 しごととにぎわいについて、「関係人口」と記載があるが、観光に関する内容であれば「交流人口」とする方が適切だと思う。また、まちづくりの目標3 暮らしと環境について、土地利用に関する記述の追加をお願いしたい。

【事務局】

関係人口と交流人口の記載は事務局でも検討しているため、カッコ書きで併記するよう検討する。
都市計画的な視点が記載できていないとの指摘については、担当課と調整して追加を検討する。

【委員】

まちづくりの目標2 しごととにぎわいについて、「にぎわい」を漢字にしている理由を確認したい。平仮名表記にすることで、平仮名が連続することが気になった。

【事務局】

市民に読みやすい計画とするため平仮名表記を用いるなどの工夫をしている。伝わりにくい部分もあるため、名称を再検討する。

【委員】

山間部の今後消滅するような集落についての記載がない。消滅しないよう整備するのか、消滅を受け入れて対策は取らないのかなどの記載があるとよい。消滅集落に限らず、少子化や過疎化に関する内容を追加すると、過疎化が進行している地域の住民の安心につながるのではないかと考えている。

【事務局】

地域の特性を考慮したまちづくりについて、意見を参考に記載を検討する。

【委員】

「煌めき」や「強靱化」は漢字表記で、「しごと」や「にぎわい」は平仮名表記となっており、ちぐはぐなのが気になる。誰にでもやさしい文章となるように表記方法を検討してほしい。

【事務局】

「煌めき」は未来共創ワークショップで出た意見の1つである。まち全体として明るく賑わいが生まれるという想いと、市民一人ひとりが輝くという想いが込められている。統一感が出るよう表記方法を検討する。

【会長】

読みやすさの観点から、漢字と平仮名を活用した理由を整理してほしい。

【委員】

「共創」というキーワードは、市民権を得ている表現なのか確認したい。なじみのない言葉のため違和感がある。

【会長】

「共創」という言葉は、行政計画や企業の取組の中で広く活用されている印象である。よりわかりやすい表現があれば修正を検討してほしい。

【委員】

まちづくりの目標4 つながりについて、目標の名称が「つながり」のみとなっている。他のまちづくりの目標と表現を合わせるため「～と～」に変更することを検討してほしい。市の将来像に記載する最上位のキーワードであるため、まちづくりの目標に再度記載することは違和感があるため、名称の再検討をお願いしたい。

【事務局】

市民の「自分らしさ」を尊重したうえで、地域共創社会があると考えているため、「自分らしさとつながり」という名称を検討している。

【委員】

将来像のフレーズ・込めた想いと同じ順番でまちづくりの目標を記載した方がわかりやすいと考えている。現在のまちづくり目標であれば、まちづくり目標 4→まちづくり目標 3→まちづくり目標 2→まちづくり目標 1→まちづくり目標 5という順番が適切だと思う。

【会長】

その他ご意見ある場合は事務局に直接ご連絡いただきたい。

(3) 今後のスケジュールについて

※事務局より議事 (3) 「今後のスケジュール」について説明した。

【事務局】

事前を送付したスケジュールから、第5回審議会日程を追加している。第5回審議会は、4/23（木）13時30分より開催し、審議会終了後に基本構想の答申を市長に行う予定である。

3. 閉会

【事務局】

お忙しい中、熱心なご審議をいただき感謝を申し上げます。専門的な知見から多角的で貴重なご意見をいただいた。本日をもって本年度に実施予定の総合計画審議会はすべて終了となる。本年度は、紀の川市の現状を明らかにするために、各種調査結果や市民参画の意見から作り上げた基本構想案についてご審議いただいた。紀の川市のまちづくりへの想いのこもった審議をいただき、深く感謝申し上げます。委員の皆さまには、引き続きご協力をお願いする。

【事務局】

第5回審議会は、4/23（木）13時30分より開始を予定している。後日正式な開催通知を送付する。

以上